

PM5D V1.10 追補マニュアル

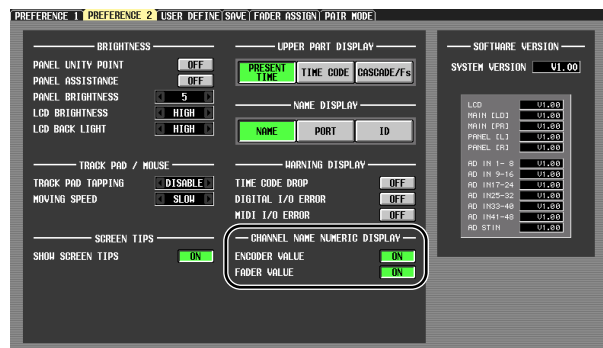
PM5D システムソフトウェア V1.10 では、V1.04 から以下の変更と補足がございます (V1.05 での変更点も含まれます)。

ENCODER [ON] キーでファンタム電源 (+48V) をオン / オフ

PREFERENCE 1 画面に「USE ENCODER-ON AS +48V」オプションが追加されました。このオプションをオンにすると、エンコーダーモードに HA(ヘッドアンプの入力感度)が選択されている場合、エンコーダーの上にある ENCODER [ON] キーでファンタム電源 (+48V) をオン / オフできるようになります。

ネームディスプレイのパラメーター値表示をオン / オフ

PREFERENCE 2 画面に「CHANNEL NAME NUMERIC DISPLAY」欄が追加されました。V1.04 以前では、各チャンネルのフェーダーやエンコーダー(パン設定)を操作すると、ネームディスプレイがそのパラメーター値の表示に切り替わりました。V1.05 以降では、「ENCODER VALUE」(エンコーダーの値)および「FADER VALUE」(フェーダーの値)のオプションをオフにすると、それぞれのパラメーター値表示に切り替わらなくなります。

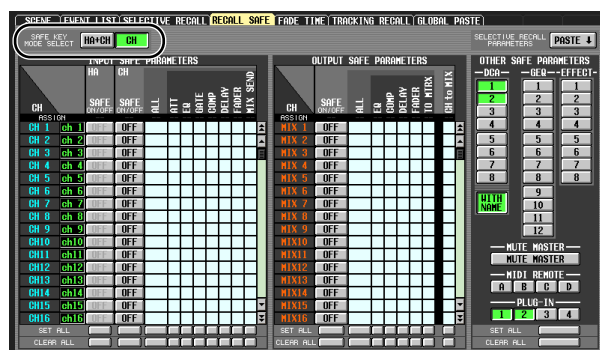


パネル操作でのモニターソース選択

パネル上でモニターソースを選択する場合、V1.04 以前では [2TR A1] ~ [2TR D3]、[DEFINE] のどれか一つと [STEREO A]/[STEREO B] (LCR 含む) のどれか一つを同時に選択できました (最大 2 つ)。V1.05 以降では、択一選択時に素早く切り替えられるように、各キーをオンにすると他のキーはオフになるようになりました。V1.04 以前と同様に 2 つを同時に選択するためには、パネル上の該当するキーを同時に押す、または MONITOR 画面で操作します。

リコールセーフのオン / オフに HA も連動

RECALL SAFE 画面に SAFE KEY MODE SELECT セクションが追加されました。HA+CH ボタンをオンにすると、パネル上の [RECALL SAFE] キーや CH VIEW 画面 (INPUT VIEW ファンクション) の RECALL SAFE ボタンの操作でリコールセーフをオン / オフしたときに、該当するチャンネルにパッチされている HA のリコールセーフも連動してオン / オフするようになります。CH ボタンがオンのときは、従来どおり連動しません。



DCA グループ名のリコールセーフ / セレクティブリコールのオン / オフ

RECALL SAFE 画面と SELECTIVE RECALL 画面の DCA 欄に WITH NAME ボタンが追加され、DCA グループのリコールセーフ / セレクティブリコールの対象から DCA グループ名だけを外せるようになりました。WITH NAME ボタンがオンのときは、オンになっている DCA グループの DCA グループ名は従来どおりリコールセーフ / セレクティブリコールの対象になります。WITH NAME ボタンがオフのときは、DCA グループ名はリコールセーフ / セレクティブリコールの対象から外れます。

Y96K カードに対応 (V1.10 から)

EFFECT ファンクションに PLUG-IN 画面が追加されました。また、SCENE ファンクションの RECALL SAFE 画面と SELECTIVE RECALL 画面に PLUG-IN パラメーターが追加されました。これらは、今後発売される Waves 社の Y96K カードに対応するためのものです。操作方法については、Y96K の取扱説明書をご参照ください。

また、Y96K カードは以下のような動作になりますので、ご注意ください。


- ・ シーンデータとしてストア / リコールされますが、アンドゥ機能には対応していません。

- PM5Dの電源を切って入れ直した場合、通常のシーンデータは電源を切ったときの状態になりますが、Y96Kは最後にストアまたはリコールした状態になります。
- Y96Kの設定が大きく変更されるようなシーンをリコールすると、PM5Dでのリコールから数秒遅れてY96Kの設定が変更されます。このタイミングを合わせたい場合は、FADE TIME画面でSTART OFFSETを設定してください。
- Y96Kのアップデート待ち画面の状態では、シーンスストア / リコール操作はしないでください。これを行なうと、最大30秒ほど画面を操作できなくなります。
- Y96Kの設定は、シーンスストアによりPM5Dに保存されます。以前にY96Kを装着してシーンスストアしたことがあれば、Y96Kを装着せずにそのシーンにストアし直しても以前のY96Kの設定が残ります。また、一度もY96Kを装着していないシーンでは、Y96Kを装着してリコールしてもY96Kには何も反映されません。
- PREVIEWモードのときは、PLUG-IN画面にY96Kの状態は表示されません。

シーンリコール時にMIDI EVENTなどの情報も引き継ぎ

シーンに含まれるMIDI EVENT、GPI OUT CONTROL、REMOTE TRANSPORTの情報が、シーンリコール時に引き継がれるようになりました。したがって、リコールしたシーンを別のシーンにストアすると、リコール時のこれらの情報がそのままストアされます。

DMEシリーズのモニターソース選択とEXTERNAL CUEのオン/オフ

DME CONTROL画面にMONITORボタンとモニターソース選択ボタンが追加されました。モニターソース選択ボタン() をクリックすると、MONITOR POINT SELECTウィンドウが表示されて、DMEシリーズのモニターソースを選択できます。MONITORボタンをオンにすると、ディスプレイ上部のEXTERNAL CUEインジケータがオンになり、DMEシリーズのモニター信号をPM5DのCUEバスに送り出します。



Note

MONITORボタンをオンにする場合は、あらかじめDMEシリーズ側のモニター出力とPM5D側のモニター入力で同じポートを選択しておいてください。DMEシリーズ側のモニター出力は、DME Designerの[Tools]メニュー→[Monitor]を選択すると表示される[Monitor Out]ダイアログボックスで設定します。PM5D側のモニター入力は、DME CONTROL画面のSETUPのMONITOR PORTで設定します。

バルクダンプで扱うデータタイプの追加

バルクダンプで扱うデータタイプに以下が追加されました。

Data name (D0)	Data Number (D1,2)	tx/rx	Function
'K'	512 (Current Data)	tx/rx	Surround Setting & Request
'V'	512- (Current Data)	tx/rx	User Defined Keys & Request
'L'	512- (Current Data)	tx/rx	MIDI Remote & Request
'U'	512- (Current Data)	tx/rx	Fader Mode & Request

SETUPデータの互換性

システムソフトウェア V1.05 以降で作成した SETUP データをシステムソフトウェア V1.04 より前のシステムにロードすることはできません。ただし、V1.04 より前のシステムで作成した SETUP データは、V1.05 以降のシステムにロードできます。

シーンデータの互換性 (V1.10 から)

Y96K カードの対応に伴い、シーンデータ (ALL DATA、SCENE MEMORY、SCENE MEMORY with LINKED LIBRARY) の互換性が以下になりました。

システムソフトウェア V1.10 以降で作成したシーンデータをシステムソフトウェア V1.05 より前のシステムにロードすることはできません。ただし、V1.05 より前のシステムで作成したシーンデータは、V1.10 以降のシステムにロードできます。この場合は、Y96K の設定はロード前のままになります。また、V1.10 以降のシステムでこのデータをセーブすると、Y96K に対応する分データ容量が大きくなります。

システム起動直後のシーン / ライブラリーの動作について補足

PM5D は、システム起動後に数分程度かけて、シーン / ライブラリーのデータを内部メモリー間で転送しています (転送時間はデータ量によって異なります)。したがって、この期間には以下の制限があります。

- GLOBAL PASTE画面のPASTEボタンは実行できません。
- シーンメモリーのUNDO機能は実行できません。
- シーンリコールに若干時間がかかります。

Studio Manager (PM5D Editor) に対応 (V1.10 から)

付属のアプリケーションソフト Studio Manager で PM5D をコントロールできるようになりました。Studio Manager について詳しくは、Studio Manager インストールガイドをご参照ください。